

PC Xサーバ

Reflection X



Reflection X導入事例紹介 ～三栄ハイテックスの場合～

Reflection Xは、米国Attachmate社が開発し、サイバネットシステムが販売する高速PC Xサーバです。最新バージョン14では、従来からの高速・高機能に高いセキュリティを加えて、WindowsからのUNIX/Linuxアクセスをより信頼できるものとしています。

LSI設計、システム開発にPC Xサーバを活用

三栄ハイテックス株式会社は、LSI設計を中心とし、システム開発から製品設計、ソフトウェア開発まで、半導体設計／開発にまつわるさまざまな業務をトータルでサポートする企業です。

同社では、UNIX上で動作するさまざまな種類のソフトウェアを活用し、設計／開発業務を行っています。それらのソフトウェアを利用するためのPC Xサーバとして選ばれたのがReflection Xでした。現在同社では170台ほどの端末にReflection Xを導入しているとのことで、毎年その台数は増え続けているそうです。

今回本誌では、同社技術本部 設計推進室 グループリーダーの柴田恭世氏、技術本部 設計推進室の柴田英明氏に、同社におけるReflection X活用事例についてお話を伺うことができました。

導入の経緯

同社では1998年ごろから検討をはじめ、2002年にReflection Xへと移行したとのことです。移行の経緯について、柴田英明氏は次のように語ります。「半導体設計にまつわる各種ソフトウェアの多くはUNIXサーバ上で動作します。そのため、かつてはUNIXワークステーションをクライアントとして利用していたのですが、スタッフの増加に伴い端末を増やす必要ができました。そこで、新たな端末としてPC Xサーバの導入を検討し始めたのです」。

製品選定のポイント

数あるPC Xサーバの中からReflection Xを選択した理由について、同氏は、「当社の環境には、256色という少ない色数にしか対応していないソフトウェアがあったのですが、Reflection Xならば色の再現性などにもまったく問題がありませんでした。新しいソフトウェアだけでなく、古いソフトウェア資産も安定して使えたという点が、導入に至った大きな理由の

1つでした」と語ります。

グループリーダーの柴田恭世氏も、「これまで使ってきたソフトウェア資産の使い勝手を維持できるかどうかという点が、PC Xサーバを評価する際の大切なポイントでした」と語ります。同社では非常に多くの設計／開発ツールを活用しているとのことで、中には古いソフトウェアもあるそうです。豊富な機能を持つだけでなく、幅広いソフトウェアをサポートするReflection Xの存在により、多くのエンジニアが安心して業務に取り組めるわけです。

導入によって何が変わったか

また同社では、コスト面の削減はもちろん、PC + PC Xサーバの導入によってフロアの省スペース化にもつながったと言います。動作速度についても、Reflection Xの動作は軽く、安定して使えているそうです。

細かいカスタマイズのしやすさも重要だと言います。キーボードレイアウトを含め、Reflection Xの柔軟なカスタマイズ機能を活用しているスタッフも多いのだとか。

さらに、WindowsアプリケーションとUNIXアプリケーションの両方を1台の端末から利用できるのも、PC Xサーバの魅力の1つです。たとえば、UNIXアプリケーション側で処理を行い、その実行結果を使った報告書を作成するといった作業を自然な流れで行えます。

製品サイトから、評価版をダウンロードすることが可能です。興味のある方はぜひReflection Xの導入を検討してみてくださいはいかがでしょうか。



サイバネットシステム株式会社 ITソリューション事業部 営業部

〒101-0022 東京都千代田区神田練堀町3 富士ソフトビル

TEL : 03-5297-3487 e-mail : itdsales@cybernet.co.jp URL: http://www.cybernet.co.jp/reflection/